

博士後期 10月入学に8人

博士後期課程10月入学制度による入学式が10月2日、OSIPP棟で行われた。10月入学制度は後期課程のみ対象で、昨年から導入された。9月に実施された入学試験では、14人が受験、8人が合格した。内訳は男性2人、女性6人。また社会人は4人、留学生は中国とフランスから各1人。

辻正次研究科長は「希望や夢を大切にしてほしい。OSIPPは学生が希望の職業に就くため、あるいは現在の職業をキャリアアップさせるために大きな貢献をしてきたし、これからもしていくつもりである」と話し、新入生を激励した。

小学校への 連続出前講義

引き続き好評です

結婚指輪の材料は「愛」?!

大学教授が小学校で講義をするという、OSIPP教官による“連続出前授業”が9月から再開し、4回目になる14日は、**コリン・マッケンジー教授**が担当、京都・久我の杜(こがのもり)小学校の6年生を相手に「オーストラリアと日本」というテーマで話した。

専門は計量経済学だが、授業では母国のことをわかってもらおうと、短パン・Tシャツのラフなオージー・スタイルで登場。オーストラリアの文化、日本との関係などについて、貨幣、写真やCDなど小物を持ちこんで解説、特に形も色も日本のものとは全く異なるプラスチック製の紙幣などに児童らは興味津々だった。オーストラリアの資源について説明するつもりで、児童らに「結婚指輪の原材料は何?」と尋ねたら、「愛」と答える場面もあり、同教授は「子供の純粋な心に感銘を受けた」と話していた。

続いて17日には**星野俊也助教授**が「日本・世界・国連」と題して授業を行った。児童らはまず、国連の加盟国数が189もあることに驚いた様子。星野助教授は、国連が発行する切手シートを回覧させ、描かれている絵をさしながら、国連の取り組みを紹介した。また自分自身「お気に入り」と話す、ノーマン・ロックウェルのモザイク画をOHPで映すと、教室にはどよめきが起こった。これは国連本部に飾られているもので、さまざまな人種の人々がにこやかに集っている様子を描いている。「こうなることを目指して世界の人々が一生懸命がんばっているんです」と国連の理想像を解説、児童らはその中に描かれている日本人われさきに見つけあっていた。最後に「人からしてもらいたいと思うことを人にしてあげよう。人が嫌がることをやっただらいけない。これが世界の人々と協力しあうことのキーワード」と述べ締めくくった。

の需要は大きい。

辻 多くの学生が従来型の学習を行っていることも一因。とはいえOSIPPの学生の差別化がまだ十分にできていないことも事実である。今後はこの点を踏まえ、コース制の導入やカリキュラムなどを工夫したい。

将来へ向けて

今後の方向性について。

山内 OSIPPも設立当時はかなり斬新なカリキュラムだったのだが、これらはいずれ模倣される運命にあり、現に高度職業人養成をうたう大学院は増えている。他の大学との差別化を図るためには新しいアイデアを出し続け、より高いハードルを越えて行かねばならない。英語だけで学位がとれるコースやインターネットを利用したネットワーク型大学院など、時代を先取りし、国際競争力をつけることが重要だ。

望月 授業評価の結果では、課題も多く評価も厳しい授業ほど学生の満足度が高い。もっと厳しくしても構わない。私はもう卒業するので(笑)。

辻 広報活動もより充実させていかなければならない。一つの案だがディスカッション・ペーパーをアカデミックなものだけでなく、もっと手軽に読める一般向けの政策提言なども発表するとか。

野村 紀要についてもよりオープンにするために、外部からの執筆者を受け入れ、レフリー制にするなどの改革は検討の余地があると考えている。

どうもありがとうございました。

ライブラリー事務補佐員に中村氏

OSIPPライブラリーの事務補佐員として中村美知子さんが8月1日付けで着任した。退職した千葉裕美子さんの後任。